

平成18年度

研究課題追跡評価（試行）結果

平成19年3月

広島県研究開発評価委員会

目 次

1 追跡評価の試行について	1
(1) 評価の対象	1
(2) 評価基準	2
(3) 総合判定基準	2
2 評価結果	3
(1) 評価結果一覧	3
(2) 評価委員会意見	5
課題別追跡評価結果	7
【参考資料】	
1 広島県研究開発評価委員会設置要綱	99
2 平成18年度研究課題追跡評価（試行）実施要領	101
3 経 緯	107

1 追跡評価の試行について

追跡評価の本格実施に当たり、問題点の抽出やその解決を図るため、「平成18年度研究課題追跡評価（試行）実施要領」に基づき追跡評価を実施し、その結果をとりまとめた。

(1) 評価の対象

平成14年度に終了した課題（研究終了後3年を経過した課題）21課題を評価した。

なお、14年度終了課題のないセンターにあっては、15年度終了課題から1課題を選定して評価した。

評価対象研究課題一覧を表1に示す。

表1 評価対象研究課題一覧

番号	研究課題名	研究機関	研究期間
1	腸管出血性大腸菌感染症に関する研究	保健環境センター	12～14
2	貝毒に関する研究	保健環境センター (水産海洋技術センター)	10～14
3	水道水質精度管理に関する調査研究	保健環境センター	12～14
4	道路交通騒音の面的把握に関する研究	保健環境センター	12～14
5	画像処理を応用したロボットビジョンシステムに関する研究	西部工業技術センター	13～14
6	電子放出炭素膜の実用化に関する研究	西部工業技術センター	12～14
7	廃鋳型微粉体の動的表面処理プロセスの開発	東部工業技術センター	13～14
8	環境低負荷型家具・住宅部品製造システムの開発	東部工業技術センター	13～14
9	地域特産作物の無病苗・クローン苗の育成	農業技術センター	10～14
10	年末、年始向け高糖系普通温州「大津四号」の生産安定技術の確立	農業技術センター	10～14
11	中北部アスパラガスのハウス多収技術及び露地省力化技術の確立	農業技術センター	11～14
12	リモートセンシングによる農地の立地環境の把握と農地管理への応用	農業技術センター	11～14
13	環境にやさしい施設果菜類の病害虫防除技術の確立	農業技術センター	11～14
14	ナシ心腐れ果の防止対策	農業技術センター	12～14
15	種苗生産施設における魚類疾病対策研究	水産海洋技術センター	12～14
16	アユ漁獲量回復対策研究	水産海洋技術センター	12～14
17	リモートセンシングを利用した山地災害地調査・森林管理支援	林業技術センター	10～14
18	菌根性きこ安定生産技術の開発	林業技術センター	12～14
19	栽培きこ実用化技術の開発	林業技術センター	12～14
20	スギ材の低コスト乾燥技術の開発	林業技術センター	12～14
21	製材品等の高付加価値化技術の開発	林業技術センター	12～14
22	圧力利用によるタンパク系素材の酵素分解技術の開発【15年度終了】	食品工業技術センター	13～15
23	クローン技術による種畜検定システムの検討【15年度終了】	畜産技術センター	14～15

注：研究機関の（）内は、共同で研究を行う研究機関を示す。

(2) 評価基準

ア 個別評価基準（各センターによる評価）

① 研究の達成度

- A：成果は移転できるレベルにある。
- B：一部の成果は移転できるレベルにある。
- C：成果は移転できるレベルではない。

② 成果移転の目標達成度

- A：目標以上に達成 達成度120%以上
- B：ほぼ目標どおり達成 達成度70%以上～120%未満
- C：移転は行ったが、目標を下回っている 達成度20%以上～70%未満
- D：移転は進んでいない 達成度20%未満

③ 知的財産権の活用状況

- A：実施許諾し、事業化されている。
- B：実施許諾を行っている。
- C：実施許諾は行っていない。

④ 研究成果の波及効果

- A：波及効果は大きい（効果は十分ある） 研究予算総額<<波及効果
- B：波及効果は認められる（効果は認められる） 研究予算総額≒波及効果
- C：波及効果はほとんど認められない（効果は薄い） 研究予算総額>>波及効果

イ 総合評価

個別評価結果の適切性を含め、評価委員会として、総合評価を実施した。

区分	内容
S	研究成果が十分に活用され、効果は当初見込みを上回っていると認められる。
A	研究成果が活用され、効果は当初見込みをやや上回っていると認められる。
B	研究成果が活用され、効果は当初見込みどおりであると認められる。
C	研究成果の活用が不十分で、効果は当初見込みをやや下回っていると認められる。
D	研究成果の活用が不十分で、効果は当初見込みを下回ると認められる。

2 評価結果

(1) 評価結果一覧

表2-1 評価結果一覧（課題番号順）

番号	研究課題名	研究機関名	研究期間	個別評価				総合評価
				研究の達成度	成果移転の目標達成度	知的財産の活用状況	研究成果の波及効果	
1	腸管出血性大腸菌感染症に関する研究	保健環境センター	12~14	A	B	C	B	B
2	貝毒に関する研究	保健環境センター (水産海洋技術センター)	10~14	A	B	C	A	A
3	水道水質精度管理に関する調査研究	保健環境センター	12~14	A	A	C	B	B
4	道路交通騒音の面的把握に関する研究	保健環境センター	12~14	A	B	C	B	B
5	画像処理を応用したロボットビジョンシステムに関する研究	西部工業技術センター	14	B	C	C	C	C
6	電子放出炭素膜の実用化に関する研究	西部工業技術センター	12~14	B	C	C	B	C
7	廃鋳型微粉体の動的表面処理プロセスの開発	東部工業技術センター	13~14	A	B	C	B	B
8	環境低負荷型家具・住宅部品製造システムの開発	東部工業技術センター	13~14	A	B	C	B	B
9	地域特産作物の無病苗・クローン苗の育成	農業技術センター	10~14	B	C	C	B	C
10	年末、年始向け高糖系普通温州「大津四号」の生産安定技術の確立	農業技術センター	10~14	A	C	C	B	C
11	中北部アスパラガスのハウス多収技術及び露地省力化技術の確立	農業技術センター	11~14	A	B	C	A	A
12	リモートセンシングによる農地の立地環境の把握と農地管理への応用	農業技術センター	11~14	B	D	C	C	D
13	環境にやさしい施設果菜類の病害虫防除技術の確立	農業技術センター	11~14	B	B	C	B	B
14	ナシ心腐れ果の防止対策	農業技術センター	12~14	A	B	C	A	A
15	種苗生産施設における魚類疾病対策研究	水産海洋技術センター	12~14	A	B	C	A	A
16	アユ漁獲量回復対策研究	水産海洋技術センター	12~14	A	B	C	B	B
17	リモートセンシングを利用した山地災害地調査・森林管理支援	林業技術センター	10~14	B	B	C	A	B
18	菌根性きのこ安定生産技術の開発	林業技術センター	12~14	B	C	C	B	C
19	栽培きのこ実用化技術の開発	林業技術センター	12~14	B	C	C	B	C
20	スギ材の低コスト乾燥技術の開発	林業技術センター	12~14	B	C	C	B	C
21	製材品等の高付加価値化技術の開発	林業技術センター	12~14	B	B	C	B	B
22	圧力利用によるタンパク系素材の酵素分解技術の開発【15年度終了】	食品工業技術センター	13~15	A	A	A	A	S
23	クローン技術による種畜検定システムの検討【15年度終了】	畜産技術センター	14~15	A	B	C	C*	C

(注) No23 の課題の波及効果は、当該システムが実用化された後（平成 22 年以降）でないと判明しない。

表2-2 評価結果一覧（総合評価区分別）

番号	研究課題名	研究機関名	研究期間	個別評価				総合評価
				研究の達成度	成果移転の目標達成度	知的財産の活用状況	研究成果の波及効果	
22	圧力利用によるタンパク系素材の酵素分解技術の開発【15年度終了】	食品工業技術センター	13~15	A	A	A	A	S
2	貝毒に関する研究	保健環境センター (水産海洋技術センター)	10~14	A	B	C	A	A
11	中北部アスパラガスのハウス多収技術及び露地省力化技術の確立	農業技術センター	11~14	A	B	C	A	
14	ナシ心腐れ果の防止対策	農業技術センター	12~14	A	B	C	A	
15	種苗生産施設における魚類疾病対策研究	水産海洋技術センター	12~14	A	B	C	A	
1	腸管出血性大腸菌感染症に関する研究	保健環境センター	12~14	A	B	C	B	B
3	水道水質精度管理に関する調査研究	保健環境センター	12~14	A	A	C	B	
4	道路交通騒音の面的把握に関する研究	保健環境センター	12~14	A	B	C	B	
7	廃鋳型微粉体の動的表面処理プロセスの開発	東部工業技術センター	13~14	A	B	C	B	
8	環境低負荷型家具・住宅部品製造システムの開発	東部工業技術センター	13~14	A	B	C	B	
13	環境にやさしい施設果菜類の病害虫防除技術の確立	農業技術センター	11~14	B	B	C	B	
16	アユ漁獲量回復対策研究	水産海洋技術センター	12~14	A	B	C	B	
17	リモートセンシングを利用した山地災害地調査・森林管理支援	林業技術センター	10~14	B	B	C	A	
21	製材品等の高付加価値化技術の開発	林業技術センター	12~14	B	B	C	B	
5	画像処理を応用したロボットビジョンシステムに関する研究	西部工業技術センター	14	B	C	C	C	C
6	電子放出炭素膜の実用化に関する研究	西部工業技術センター	12~14	B	C	C	B	
9	地域特産作物の無病苗・クローン苗の育成	農業技術センター	10~14	B	C	C	B	
10	年末、年始向け高糖系普通温州「大津四号」の生産安定技術の確立	農業技術センター	10~14	A	C	C	B	
18	菌根性きこ安定生産技術の開発	林業技術センター	12~14	B	C	C	B	
19	栽培きこ実用化技術の開発	林業技術センター	12~14	B	C	C	B	
20	スギ材の低コスト乾燥技術の開発	林業技術センター	12~14	B	C	C	B	
23	クローン技術による種畜検定システムの検討【15年度終了】	畜産技術センター	14~15	A	B	C	C	
12	リモートセンシングによる農地の立地環境の把握と農地管理への応用	農業技術センター	11~14	B	D	C	C	D

(2) 評価委員会意見

1) 総合評価方法について

- 総合評価に当たっては、4項目の個別評価結果を基に総合的に判定した。なお、知的財産件の活用状況については、課題実施当時は知的財産の取得を大きな目標としていなかったことから、実施許諾がないことのみをもって低い評価にならないよう配慮した。

2) 結果概要について

- 評価を行った 23 課題のうち、標準である B 評価（研究成果が活用され、効果は当初見込みどおりであると認められる課題。）以上の課題は 14 課題であり、全体の約 6 割であった。知的財産権が企業の製品化に活用されるなど大きな事業効果が認められる課題もあることから、これらの成果について、今後さらに移転が行われるよう積極的に対応されたい。
- 研究成果の活用が不十分で、効果は当初見込みをやや下回っていると認められる C 評価以下の研究課題が 9 課題あった。今回評価を行った課題は、研究課題の外部評価を導入する前に開始された課題であることもその一因と考えられるが、その原因を十分解析し、今後の研究開発の企画立案や、必要に応じ現在実施中の課題の修正に活用するなど、よりよい研究となるよう努められたい。

3) 今後の対応

- 今回の追跡評価は試行として実施したが、研究成果の県民への説明責任だけでなく、研究開発マネジメントの改善や研究課題の企画立案能力の向上等に有効であるため、引き続き実施すべきである。その際、評価点が低くなることを意識するあまり、研究目標の設定を低くするなど研究者の創造性と研究意欲を損なうことのないよう留意していただきたい。
- 課題番号 23 の「クローン技術による種畜検定システムの検討」については、今回の追跡評価では「研究成果の波及効果＝C」としたが、本課題の性格上、成果移転の効果が判定可能となるのは平成 22 年度以降になるため、それ以降に再度追跡評価を行うこととされたい。

課題別追跡評価報告書

目 次

番号	研究課題名	研究機関	ページ
1	腸管出血性大腸菌感染症に関する研究	保健環境センター	9
2	貝毒に関する研究	保健環境センター (水産海洋技術センター)	13
3	水道水質精度管理に関する調査研究	保健環境センター	17
4	道路交通騒音の面的把握に関する研究	保健環境センター	21
5	画像処理を応用したロボットビジョンシステムに関する研究	西部工業技術センター	25
6	電子放出炭素膜の実用化に関する研究	西部工業技術センター	29
7	廃鋳型微粉体の動的表面処理プロセスの開発	東部工業技術センター	33
8	環境低負荷型家具・住宅部品製造システムの開発	東部工業技術センター	37
9	地域特産作物の無病苗・クローン苗の育成	農業技術センター	41
10	年末、年始向け高糖系普通温州「大津四号」の生産安定技術の確立	農業技術センター	45
11	中北部アスパラガスのハウス多収技術及び露地省力化技術の確立	農業技術センター	49
12	リモートセンシングによる農地の立地環境の把握と農地管理への応用	農業技術センター	53
13	環境にやさしい施設果菜類の病害虫防除技術の確立	農業技術センター	57
14	ナシ心腐れ果の防止対策	農業技術センター	61
15	種苗生産施設における魚類疾病対策研究	水産海洋技術センター	65
16	アコ漁獲量回復対策研究	水産海洋技術センター	69
17	リモートセンシングを利用した山地災害地調査・森林管理支援	林業技術センター	73
18	菌根性きのこ安定生産技術の開発	林業技術センター	77
19	栽培きのこ実用化技術の開発	林業技術センター	81
20	スギ材の低コスト乾燥技術の開発	林業技術センター	85
21	製材品等の高付加価値化技術の開発	林業技術センター	87
22	圧力利用によるタンパク系素材の酵素分解技術の開発	食品工業技術センター	91
23	クローン技術による種畜検定システムの検討	畜産技術センター	95

注：研究機関の（）内は、共同で研究を行う研究機関を示す。